

## アトサヌプリの火山活動解説資料（平成30年8月）

札幌管区気象台  
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。  
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

### ○ 活動概況

#### ・噴気などの表面現象の状況（図1-①②、図2～9）

監視カメラによる観測では、F1噴気孔群及びF2噴気孔群の噴気の高さは火口上200m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

7月31日に実施した現地調査では、前回（2017年7月）と比較してアトサヌプリ溶岩ドームに点在する噴気孔や熊落し火口の状況に変化はなく、赤外熱映像装置<sup>1)</sup>による観測でも地熱域の状況に特段の変化はありませんでした。

#### ・地震及び微動の発生状況（図1-③）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

#### ・地殻変動の状況（図1-④⑤）

GNSS<sup>2)</sup>連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

- 1) 赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器で、熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 2) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。

---

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<https://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ([https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly\\_v-act\\_doc/monthly\\_vact.php](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php))でも閲覧することができます。

この資料は気象庁のほか、国土地理院のデータを利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平29情使、第798号）。また、同院発行の『電子地形図（タイル）』を複製しています（承認番号 平29情複、第958号）

今回の火山活動解説資料（平成30年9月分）は平成30年10月9日に発表する予定です。

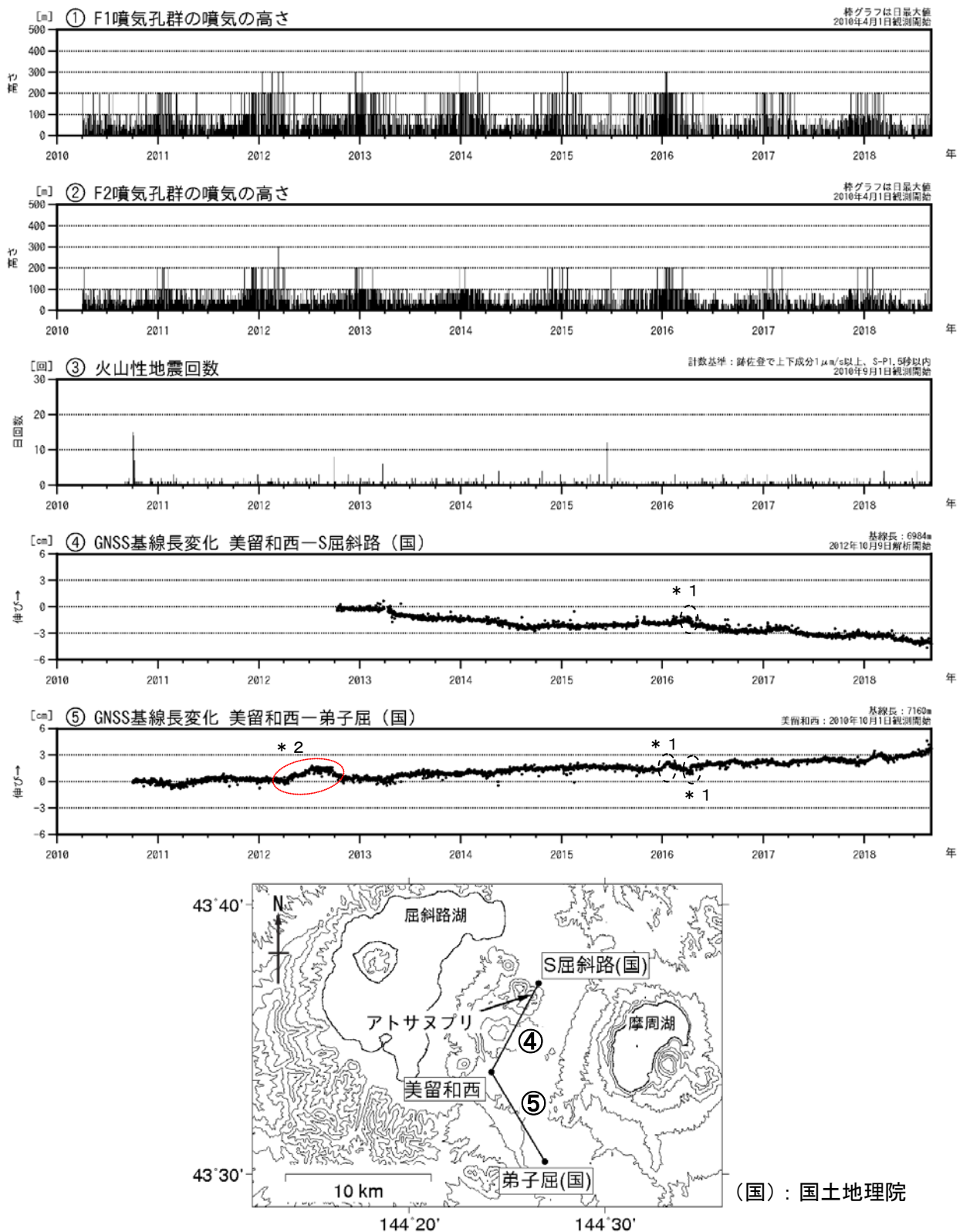


図1 アトサヌプリ 火山活動経過図（2010年4月～2018年8月）及びGNSS連続観測点配置図

④⑤のGNSS基線は観測点配置図の④⑤に対応しています。

GNSS基線の空白部分は欠測を示します。

- ・④⑤の黒破線円内の変動（\* 1）は、美留和西観測点の局所的な動きによるもので、火山活動によるものではないと考えられます。
- ・⑤の赤点線円内の変動（\* 2）は、弟子屈(国)付近の樹木の影響及び伐採（2012年9月下旬）によるものです。



図2 アトサヌプリ 北東側から見た山体の状況  
（8月23日、北東山麓監視カメラによる）

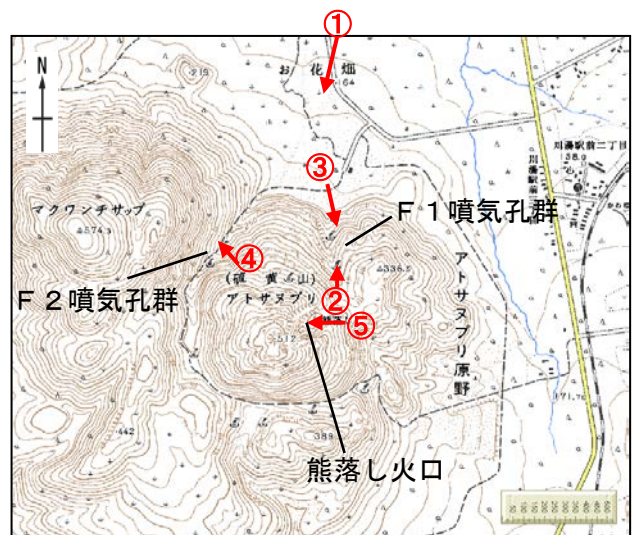


図3 アトサヌプリ 周辺図と写真及び  
赤外熱映像の撮影方向（矢印）



図4 アトサヌプリ 全景 北側（図3の①から撮影）

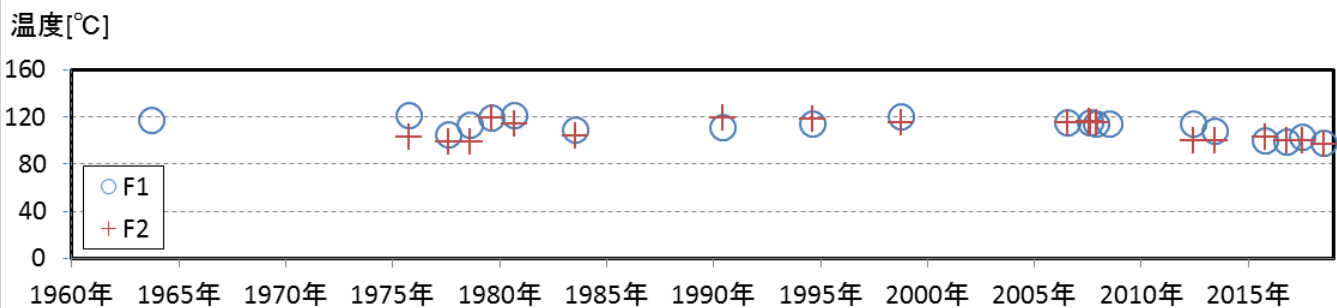


図5 アトサヌプリ 熱電対温度計によるF 1・F 2 噴気孔群の最高温度（1963年～2018年）  
・2012年頃から、それ以前と比較して温度はやや低下した状態となっています。



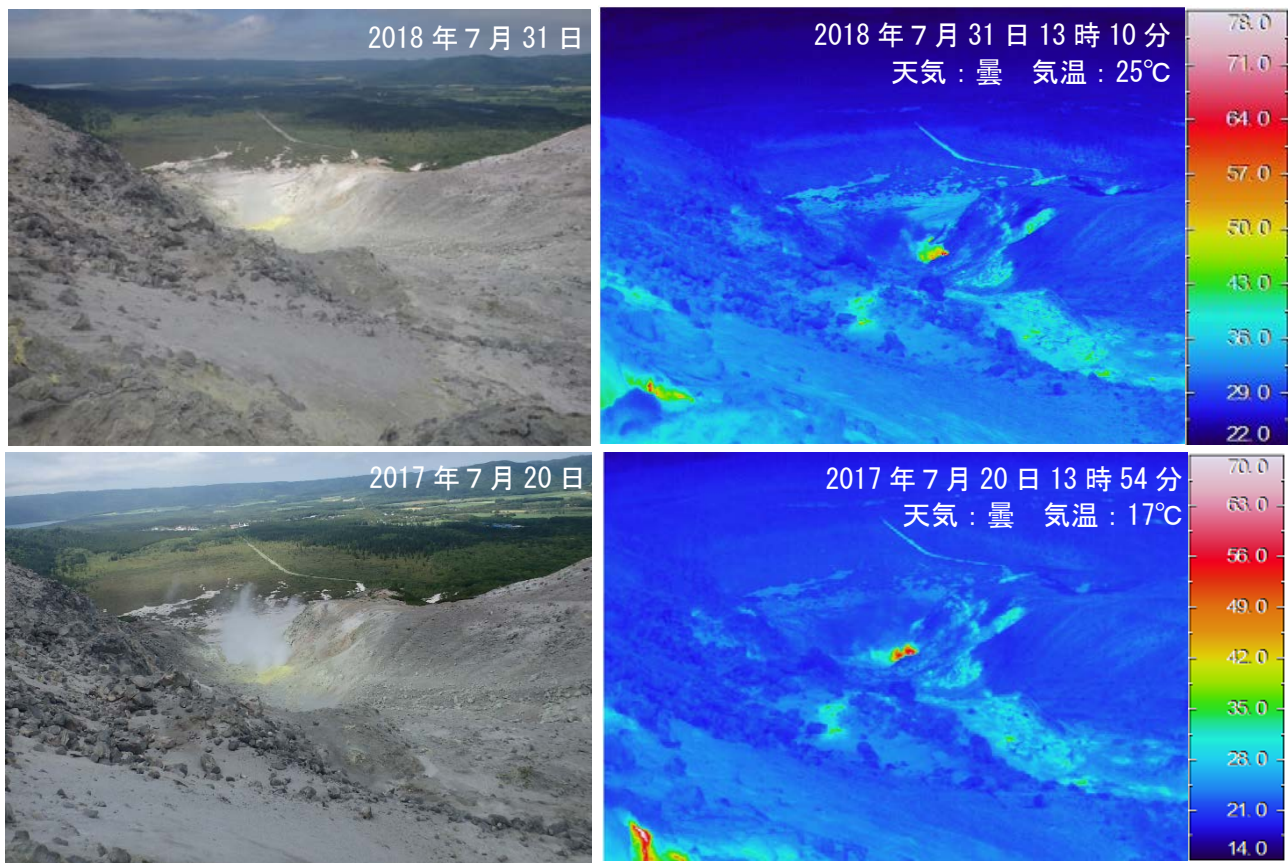


図6 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF1噴気孔群南側の地表面温度分布（図3の②から撮影）  
 ・前回（2017年7月20日）の観測と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

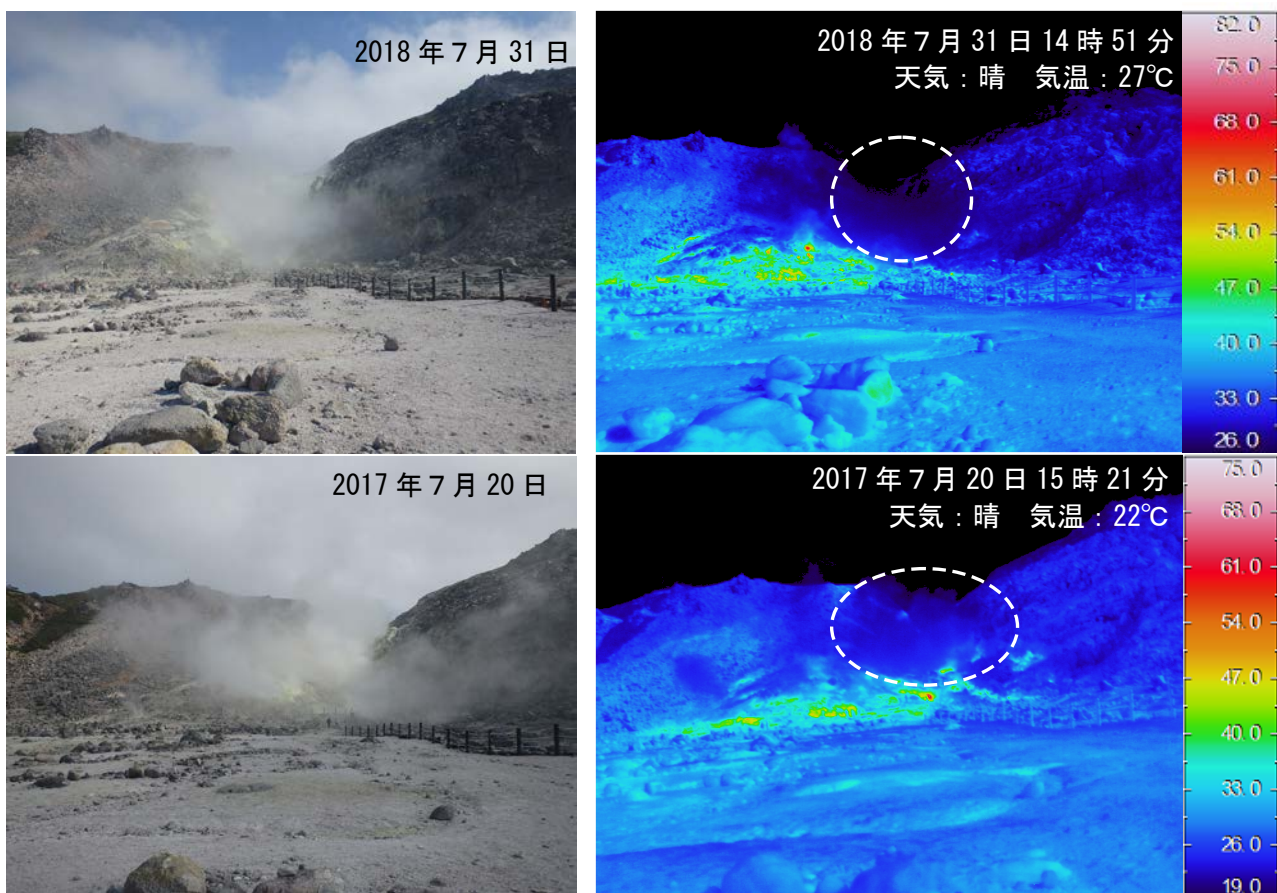


図7 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF1噴気孔群北側の地表面温度分布（図3の③から撮影）  
 ・前回（2017年7月20日）の観測と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。  
 ・白色破線部内の見え方の違いは噴気の影響と考えられます。



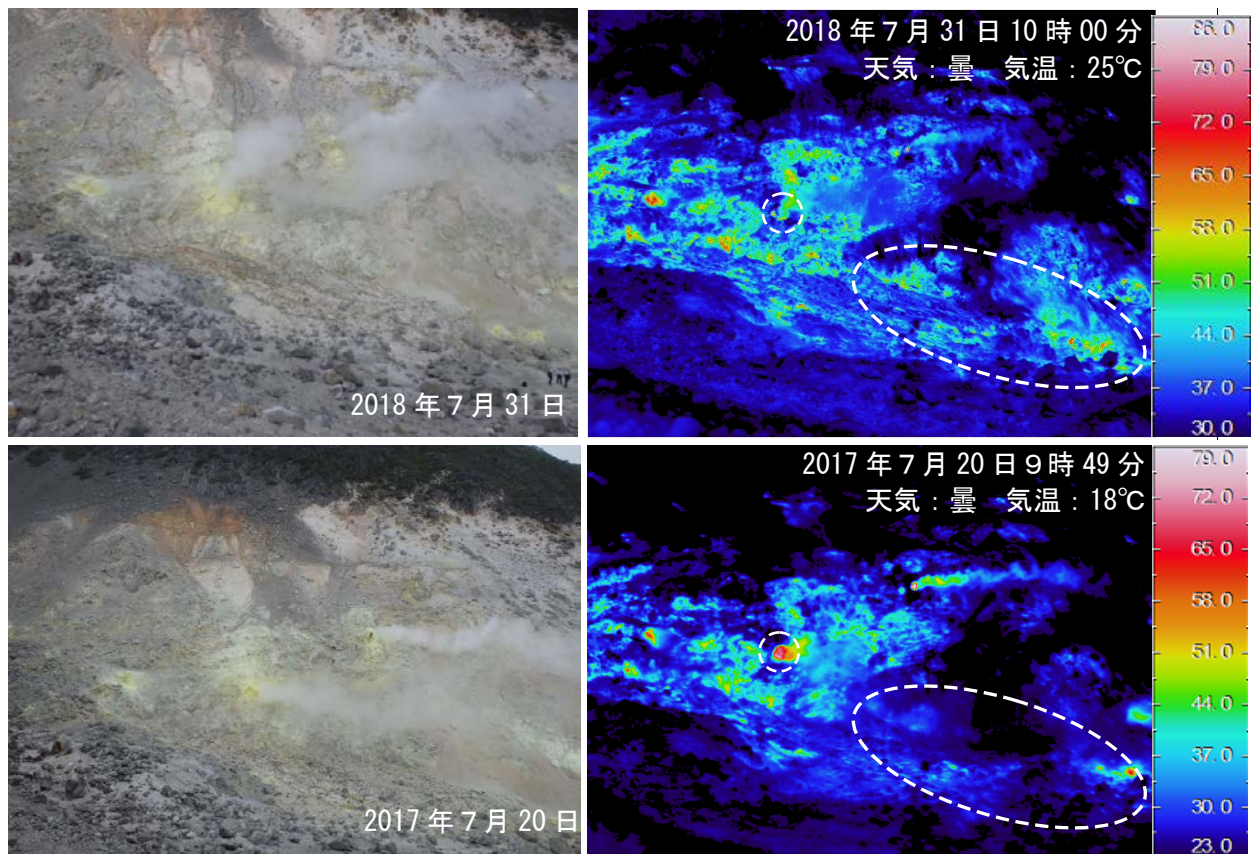


図8 アトサヌプリ 赤外熱映像装置によるF2噴気孔群の地表面温度分布（図3の④から撮影）  
 ・前回（2017年7月20日）の観測と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。  
 ・白色破線部内の見え方の違いは噴気の影響と考えられます。

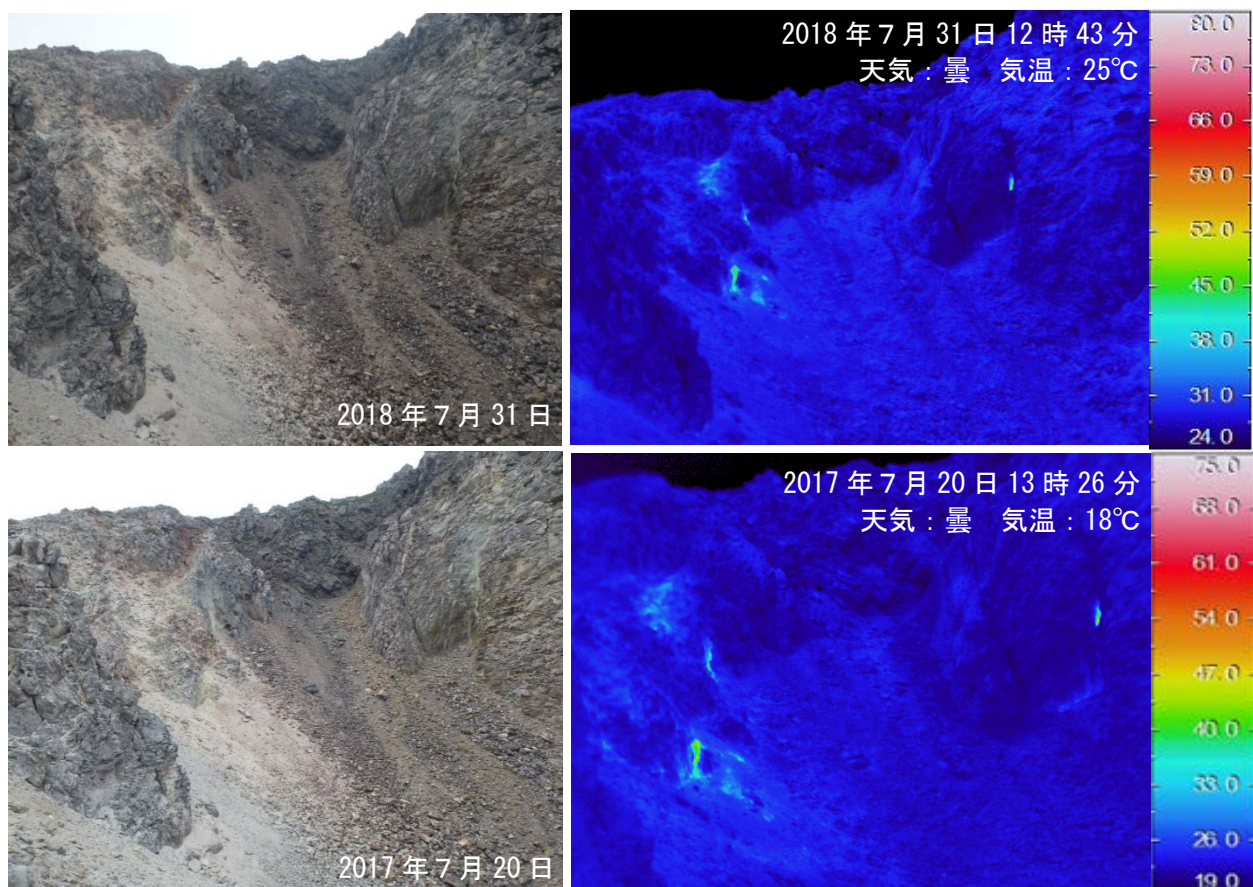


図9 アトサヌプリ 赤外熱映像装置による熊落し火口の地表面温度分布（図3の⑤から撮影）  
 ・前回（2017年7月20日）の観測と比べて地表面温度分布に特段の変化はありませんでした。

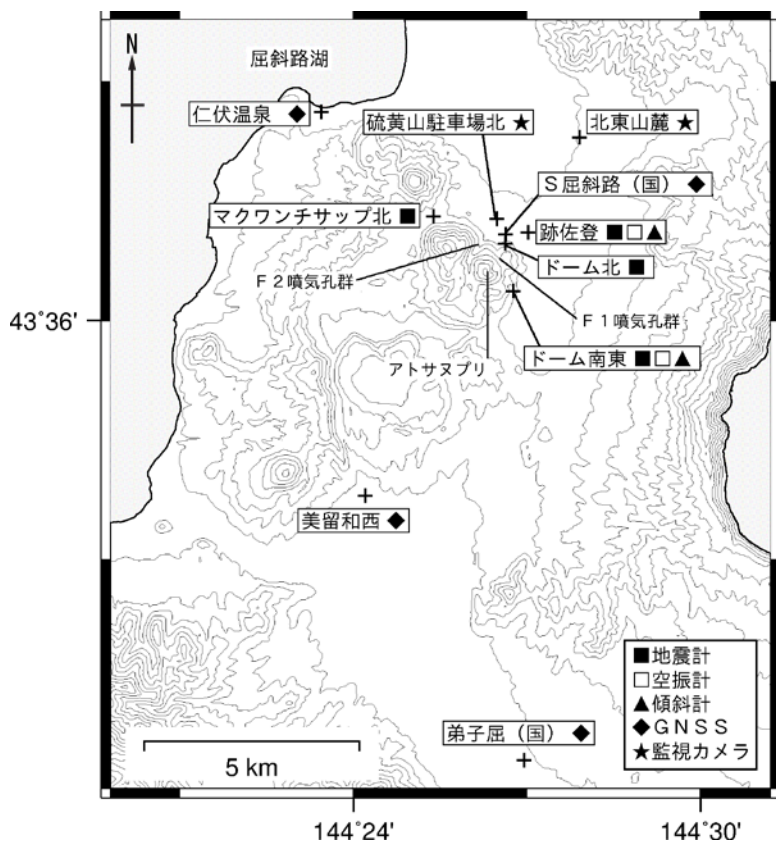


図10 アトサヌプリ 観測点配置図

+印は観測点の位置を示します。

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています。

(国)：国土地理院